

初産婦の妊娠に伴う問題への対処行動とその影響要因

著者	灘 久代
発行年	2001-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10422/351

論文内容要旨

※整理番号	18	(ふりがな) 氏 名	ふだ ひさよ 灘 久代
修士論文題目	初産婦の妊娠に伴う問題への対処行動とその影響要因		
<p>目的 初産婦の妊娠に伴う問題とその対処行動を明らかにし、対処行動への影響要因を導き出す。</p> <p>＜方法＞ 質的因子探索型研究</p> <p>妊娠に伴って派生する問題とその対処行動は、言葉を通して表現されるという前提にたって、初産婦 10 名を妊娠中期・後期・末期の各時期に、半構成化した面接調査を継続的に行なった。分析は逐語録より妊娠に伴う問題と、その対処を表している記述部分を抽出し行なった。問題への対処については、ラザルスの認知・動機・関連理論をもとに、そこに示されている 2 つの機能、「問題解決型対処」、「感情調整型対処」にそって、妊婦の対処行動を把握した。さらに対処行動から、対処への影響要因を導き出した。</p> <p>＜結果＞ 初産婦の妊娠に伴う問題は、1) 妊婦が経験している問題、2) 医療従事者・家族等から指摘された問題、3) 医療従事者からの説明が理解できていないことによる問題、4) 誤った思いこみや、知識不足による問題、5) 役割移行上の問題、の 5 つに分類する事ができた。問題への対処には、妊婦の問題認識の有無により対処が決まり、その対処には、1) 問題解決型対処、2) 感情調整型対処、3) 問題解決型・感情調整型対処、4) 無対処、に分けられた。そして対処行動には有効な対処行動ばかりではなく、妊娠経過や母児の健康にとって有害と思われる行動が見られた。また対処への影響要因として、「関係性」、「ニード」、「危機感」、「知識」、「優先順位」の 5 つを見出した。</p> <p>＜考察＞ 5 つに分類した問題は、それぞれに独立しつつも問題間の繋がりが見られ、対処行動に影響を及ぼしていることが示唆された。問題状況における無対処とは、問題への対応に何らかの対策も講じない状態とし、有害な対処と区分した。無対処には、1) 問題への対処の限界、2) 自分とは無関係と考える、3) 行動制限により対処がとれない状況、の 4 つが含まれていた。対処への影響要因は、妊娠の受け止めや胎児の受容を大きく左右する夫の存在を示す「関係性」が、5 つの要因の中でも、中心的な要因であり、基盤になっていると考える。そして「関係性」の上に、妊娠経過への「危機感」をはじめ、現況の理解や予測できる「知識」、妊娠経過や出産方法への「ニード」といった要因が、積み上げられていくと言える。そして最終的には自分自身を客観的に見つめ、自分と胎児の優先順位をどう考えるか、といった妊婦の判断に因るところが大きいと説明できる。</p> <p>＜総括＞ 一般に女性が妊娠したときに直面する課題は、妊娠期間中に母親になることを受容できるかと言うことである。夫をはじめ家族に支援される状況の中で、専門職者として、妊婦支援のあり方や働きかけを、今日の女性の生活状況を踏まえ、明らかにしていく必要がある。今回、妊婦の問題とその対処行動、さらには影響因子を明らかにしたことは、妊婦支援に有用な示唆が得られたと考える。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字以内)

2. ※印の欄には記入しないこと。